

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援事業所 若草園		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1 月 10 日		～ 令和 7 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 10 日		～ 令和 7 年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 7 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常生活スキルの習得や集団生活の適応の支援を行っていること。	・就学や保育園入園を見据えた身の回りの活動が身につくように丁寧に支援を行っています。 ・活動の流れが分かるように絵カードや写真などを使って支援をしています。 ・毎日の活動をルーティン化し、お子さんが安心して過ごせるようにしています。	・さらに充実を図るために、こどもの発達のニーズに合わせた個別の課題の提供を検討していきます。 ・職員のスキル向上のため、研修やリハビリに同行させていただき、保護者の方とお子さんの支援についてのご相談をさせていただきます。
2	異年齢児の小集団での支援を行っていること	・利用開始年齢に制限はなく、発達を心配されたお子さんの利用の受け入れをさせていただいています。 ・日々の生活の中で学年が上のお子さんが下のお子さんに見本となることができる事を見せる場面が見られお互いの様々な活動意欲が高まります。	・個々のニーズに合わせ、同年齢の集団活動も加えて更なる刺激からコミュニケーションが高められるようにしていきます。
3	町内保育園への移行、併行通園など隣の公立保育園と園庭の共有、保護者が同年代の中で活動、遊ぶこどもの姿を間近で見ることができ、こどもの様子、課題を共有できること。同時に町内保育園と併行通園のこどもの丁寧な移行と情報共有など連携体制が整っていること。	・町内の保育園との併行通園を積極的に取り入れています。保育園の参観に行き、お子さんの支援状況や課題について共有しています。 ・隣接する保育園とは日々の遊び場の共有や2歳児交流を行っています。	・引き続き保育園と併行通園や保育園との情報共有を行いお子さんの成長を両園で促していきます。 また、隣接する保育園との交流も増やしていけるよう検討していきます。
4	発達障がい診療、発達障がい等のリハを提供する医療機関等の職員が外部専門職として相談に入り、状況に応じて医療受診がスムーズにつなぐことができ、受診後も園と保護者と情報共有が丁寧に行えること。	・医療機関への受診、療育訓練に定期的に動向もでき、園では集団や同年代の中での様子を見ていただくことができ、より具体的に個別療育の中で保護者と医療機関が課題を深めて話しができるように工夫している。	・引き続き外部専門職からの助言を元に、原点回帰とともに「個別療育とは」、「療育の視点とは」、「発達年齢に応じた対応とは」、「計画に基づいたPDCA」を学び、合理的配慮、集団活動と個別療育の良さを考えながら、職員間で情報共有、振り返りを重ねていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応について保護者への周知が明確さに欠けること	・避難方法を掲示で知らせていますが各家庭に周知されていません。 ・月1回避難訓練を実施していますが、単独でお預かりしているご家庭への周知があまりされていません。	・避難方法や避難時の対応などの詳細を各家庭に配布または、保護者の皆様が集まる機会に説明をするようにします。
2	事業所の活動等の情報発信不足であること	・月1回の園だより内に事業所の活動内容の一部を載せていますが情報発信力としては弱いと感じます。	・情報伝達方法を検討し発信力を高めていきます。
3	保護者交流や学習の場の提供が少ないこと	・保護者交流の場として【親の会】を設けておりますが、就労をされている保護者の方が増え機会が減りました。 ・今年度、保護者学習会の実施はしていません。	・【親の会】は、保護者の方同士の交流としてニーズに合わせて前向きに実施をしていきたいと思えます。 ・保護者学習会は、要望等確認して必要に応じて計画していきたいと思えます。
4	保育園、集団活動へつなぐことを大切にしている反面、保育園の生活リズムや保育園と同様の視覚化、構造化など支援の手法が一辺倒に陥りやすいこと。	・個別療育、集団活動の際にPDCAを毎回実施し、何を目的として行うのか、何に焦点を当てるのか、どの年代を意識するのか、うまくいった点、思うようにできなかった点などを園内で共有する機会がまだ少ない。	・1日1回、確実に1ケースでよいので、見直し、次の活動の工夫、改善点を話し合い、次の際に取り組むことを意識する。
5	定員が10人のため、やりとりが対大人中心になりがち	・0歳から6歳と年代差があり、集団が組み難いことや同年代の集団とのやり取りの機会が乏しくなってしまう。 ・発達年齢、特性も踏まえるとやりとり、社会性が対大人が中心になってしまうこと。	・公立保育園と隣接していることを有効に活用し、定期的な小集団交流を実施するなど、集団と個の中の様子を見る機会を定期的に様々な活動、場面で取り組めるように交流を図る。